



詩集
Moon Lovers
VIII

たかはしみどり

Moon Lovers VIII

たかはしみどり

Actor

誰もが自分の人生を演じる
ステージの上の役者さ
成功か失敗かは自分次第
涙も笑いも 悲しみも喜びも
どう演じるかは君次第
心に隠しているのは何？
ポケットに隠ばせているのは
あいつを傷つけるためのコルト？
あいつと手を組むための甘い罠？
どちらを手にするかは君次第
けれどあいつも馬鹿じゃない
成功というパスポートを
手に入れるのはどっちだ
後悔の痛手を負わぬよう
君とあいつの知恵比べ
さあ 見せてもらおう
君はどう演じきる
勝利を手にしたなら
遠く旅立っていけばいい
君自身の人生を上手く演じて
笑って終わりが迎えられるか
この僕に見せてごらん
そして 結末は君次第

同じ空の下

ここで幸せに笑っているのも
どこかで争いが起きてるのも
有り余るほど得られるのも
ごみだめをあさって生きるのも
満ち足りて棄てるのも
空腹で死んでいくのも
希望に溢れるのも
絶望に涙するのも
愛し合うのも
殺し合うのも
みんな同じ空の下
オレンジ色の夕焼けや
降るような満天の星空も
みんな平等なはずなのに
ここに公正という言葉はない

光と影

君が光なら 僕は影
ステージの隅でも輝き続け
人の目を惹きつける君
僕は同じステージの中心で
スポットライトを浴びながら
君の影になるピエロ
人を魅了する身のこなし
その淋しげで潤んだ
それでいて強い意志を持つ瞳は
どこから見ても魅力的
決して嫉妬や妬みではなく
君は僕の憧れだから
ずっと僕の前を走っていて

時のカケラ～置き忘れた記憶～

無くした時は帰ってくるのか
時のカケラを拾い集めて
パズルのように埋めたなら
君は僕を思い出すのか

無くした記憶は蘇るのか
ガラスの破片を張り合わせ
元通りになったとしても
記憶の隙間は埋まるのか

僕は君を覚えているのに
君は何を見ているのか
そんな仕打ちはほしくない
せめて僕に笑って見せて

君が落とした時のカケラ
戻ることが不可能ならば
僕が覚えていてもいいかな
無くした過去は僕の記憶に

歪んだ鏡

鏡に映る自分の顔が
歪んで見えると君は言う
歪んでいるのは鏡の方か
君が歪んでいるんじゃないか

君の眼に映る人の心が
歪んでいると君は言う
歪んでいるのは人の心か
君の心が歪んでいるんだ

自分がすべてと信じる君
人の心を受け入れず
人の心の痛みを知らない
愚かな君の心が悲しい

夢の続き

夢は本当に叶わない？
最後までやってみたの？
諦めないで夢の続きを見てごらん
怖がらないで飛び込んでごらん
閉じたままのドアを開いて
一歩踏み出してごらん
いつか必ず見えてくる
小さな光も集まれば
眩しいほどの光線になる
海に沈めたオルゴールも
再び音を奏でる日を待っている
君の夢もいつか再び動き出す

手を繋ごう

一人で歩くのは怖いから
手をつなごう 誰かと
ひかりのつぶもあつまれば
きっと一筋の道ができる

暗闇を歩くのが怖いから
手をつなごう 僕と
いのちのしずくをすくったら
きっと大きな力が生まれる

足音

遠ざかる足音は
過去に置いてきた私
後悔がないなら
振り返らないで

近づく足音は
静かに来る明日の私
ただ一点を見て
光に向かって行け

この足音は
今の私の命の証し
一步一步確実に
刻まれるべきもの

NO COLOR

君の心には色がない
それなら僕が教えよう
君にも感情があるんだと

君の夢には色がない
それなら僕が見せてあげよう
君にも可能性があるんだと

君の世界には色がない
それなら僕が染めてあげよう
君にも必ず未来が来るから

風吹く空に

君が空に散らした言葉
その心を捕まえたなら
きつともう届かないから
このままここで見送ろう

君が風に放った秘密
その心を抱きしめたなら
きつと壊れてしまうから
そっと瞼に閉まっておこう

詩集Moon LoversVIII

<http://p.booklog.jp/book/87401>

著者：たかはしみどり

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/midri7911/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/87401>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/87401>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ